●学校支援情報●

岡崎むかし館通信

vol.5

http://www.city.okazaki.aichi.jp/libra/803/p014017.html
むかし館活用事例や郷土学習のヒントなどの情報を発信します。

岡崎市のホームページが新しくなったのに合わせて、むかし館のホームページも図書館交流プラザりぶらのホームページとともに変更されました。新しいホームページは、ユニバーサルデザインを基本とし、音声読み上げソフトにも対応しています。

むかし館のあれこれ　― 活用・教材化へのヒント ―

「馬」と人との関わり探る

今年は、午年です。古来、馬は神の乗り物として大切に扱われてきました。神社の絵馬や、お祭りに登場する飾り馬は、みなさんもよく知っていることと思います。そこで今号は、岡崎市における、「馬」と人との関わりについての情報提供をします。

矢作川流域には、馬に関する祭礼行事が数多く残されています。その代表的な一つに「飾り馬」「駆け馬」といわれるものがあります。細川町では、「駆け馬」は昭和10年ぐらいまで毎年、行われていました。馬を引く人は法被姿で、２人で両方から馬の口を持って走りました。「馬の綱を持って走れんものは、若い衆になれん」とまで言われたそうです。「飾り馬」は現在も行われています。飾り馬と呼ばれる神馬（神は馬に乗ってやって来るという伝承から呼ばれた）は、唐鞍などの美しい馬具で着飾り、背中には大きな御幣を付けました。御幣は３体の「神」を表し、真中のものが「大山祇神」、右が「木花咲爺姫」、左が「出雲大社」であると伝えられています。現在岡崎市には、細川町のみで伝承されていまが、飾り馬の道具は、各地に残されています。

馬と人との関わり、とても興味を引く内容が多く含まれています。ぜひ、地域で多くの情報をつかんで追究してみてください。【N】

馬の塔(オマントウ)古村積神社祭礼

飾り馬

地域の再発見　―あるく・みる・きく―

むかし語り・伝説の世界の教材化

現在の小園池

ご神体の蛇柳

今回は、名もなき人々が自分たちの生活を守ろうとして後世に残した、むかし語り・伝説の活用について考えてみたいと思います。

六ツ美地区を歩いている時に、六ツ美南部小学区の小園に伝わるむかしばなし「御園（小園）池の主」に出会いました。『続 おかざきのむかしばなし』に書かれているこのお話は、人や動物を襲う大蛇（小園池の主）を大男が退治して鎮魂する内容です。ところが、『新編 愛知県伝説集』に同じタイトルの「小園池の主」というお話があり、こちらは、鰌（小園池の主）が助けてくれた老人に恩返しをします。いずれのお話も、小園池と広田川、岩堀池（菱池）が舞台として登場します。そして幸田町でも「岩堀池の主」というタイトルで似たようなお話が語り継がれています。

同じ場所にまつわるお話が、なぜ人物や内容を変えて語り継がれているのでしょうか。また、この話の内容に何が読み取れるか、地域を丹念に調べ、その姿をどのように描き出していくことができるでしょうか。

例えば、「大蛇」が登場する話では、大蛇が住む小園池がどのような場所で、大男によって退治された大蛇の結末は、どのようになったのかを読み解くことによって、この地域の成り立ちの背景を探り出す手がかりにすることが出来ると思います。

「鰌」が登場する二つの話は、狭くなった所から、広い所へ移してくれた老人にお礼をするという話です。この話の背景には、近世後期以降全国的に広がった新田開発との関わりが思い浮かびます。

むかし語り・伝説は、歴史資料として適当でないと言われ続けてきましたが、話しが伝えられてきた風土・環境を今一度見直し、教材としての有効性を今一度再認識してほしいと思います。【N】

馬のお祭りとして、高浜では「オマント」と呼ばれる「駆け馬」祭りが有名です。また、「飾り馬」は「オマントウ」として、県内各地の祭礼で奉納されています。中央図書館の地域資料コーナーで調べて、今年は祭りに足を運ばれてはいかがでしょうか。

●編集/発行(隔月)　岡崎市立中央図書館･企画班　平成26年1月
〒444-0059　岡崎市康生通西4－71　tel.23-3167 / fax.23-3165

開催中!【企画展「くらしの道具－今と昔－⑧灯す」～3/11】

企画展関連催事「みんなで学ぶ和ろうそく」参加者募集中～2/7（市政だより1/15号掲載）